

平成30年度第2回東住吉区区政会議

1 開催日時 平成30年10月24日（水）午後7時00分～午後9時02分

2 開催場所 東住吉区役所 3階 302・303会議室

3 出席者の氏名

（委員）

大平 和子、建林 典夫、筒井 由美子、西田 文男、波多野 華代、
花川 義翁、樋口 恒子、平田 睦、藤本 英治、藤本 潤、藤本 佳孝、
翠 紀雄、美濃 満、善積 康子

（市会議員）

江川 繁、加藤 仁子、田辺 信広、辻 義隆

（東住吉区役所）

上田区長、山根副区長、齋藤政策推進課長、中原総務課長、
今西事業調整担当課長、杉本区民企画課長、伊藤次世代育成担当課長、
池川窓口サービス課長、河村保健福祉課長、柴田子育て支援担当課長、
玉木保健主幹、市川保護課長、金森生活支援担当課長、

4 議題

（1）開会

（2）東住吉区長挨拶

（3）子育て教育部会からの報告

（4）安心つながり部会からの報告

（5）平成31年度運営方針（スケジュール）について

（6）その他

オリジナル婚姻届のデザイン募集について

「なでしこ」報道局主催フォトコンテストについて

（7）閉会

○善積議長

皆様、こんばんは。定刻となりましたので、ただいまより平成30年度第2回東住吉区
区政会議を開催させていただきます。

本日の会議は、2つの部会で議論いただきました報告を中心に進めていきたいと思えます。

本日の報告資料に関しましては、現地で視察をしていただいたり、いろいろなヒアリングなども行っていただいて、部会長さん、委員の皆さんに作っていただいたということで、本当にありがとうございました。

まず、欠席者の確認をさせていただきます。本日、御連絡をいただいていますのが、森川委員、中津委員、榊委員、松田委員の4名となります。

「区政会議の運営の基本となる事項に関する条例」第7条でございますように、委員の定数2分の1以上の出席が本日ございますので、会議は有効に開催されているということになりますので御報告申し上げます。

また本日、大阪市会議員の田辺議員、江川議員、辻議員、加藤議員に御出席をいただいております。

市会議員の皆さんには最後、時間を設けて一人ずつ助言をいただくことにさせていただいておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

議事に入る前に、注意事項を幾つかお話しさせていただきます。会議では発言の方の御氏名と発言内容が会議録に残り、公表されますので御承知をいただきたいと思えます。会議のルールといたしまして、発言をされる場合、挙手をして発言をしたい意思を示していただきまして、私がお名前を呼びますので最初にお名前を発言いただいて御意見をということをお願いいたします。

会議中は携帯電話をお切りいただきまして、傍聴において傍聴者の方は写真撮影、録画、録音を区長の許可なくしてはいけないことになっておりますので、委員の皆様におかれましても会議中はどうぞお控えいただければと思えます。

次に、次第の2として上田区長からの御挨拶をお願いいたします。

○上田区長

皆さん、こんばんは。本日も、平日の大変お忙しい中、御出席賜りまして本当にありがとうございます。

前回は6月12日に開催させていただきました。その後、各部会に分かれていただいて、先ほど善積議長からございましたように、現地視察も含めて活発な御議論をいただいて、各部会の部会長さんに本日の資料をまとめていただいたということでございます。この資料に基づいて、発表並びに活発な御議論をいただいて区政会議としてまとめていただきました

いと思っていますので、どうか最後まで活発な御意見、御議論をお願いいたしまして、冒頭甚だ簡単ではございますがご挨拶とさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

○善積議長

ありがとうございました。それでは資料の確認を事務局から、お願いできますでしょうか。

○齋藤政策推進課長

政策推進課長、齋藤でございます。

先日前送らせていただいている資料ですけれども、次第はございますでしょうか。そちらの裏に配付資料一覧がございますので、それを見ながら確認してまいりたいと思います。

まず、委員名簿です。それと座席表です。後ほどお話し合いをしていただく際の配席図も入れておりますので、そちらも確認いただけたらと思います。

それと資料1としまして、「子育て教育部会報告」です。それと資料2としまして、「安心つながり部会報告」です。それと、資料3としまして「平成31年度東住吉区運営方針【スケジュールについて】」でございます。資料4としまして、「オリジナル婚姻届について」でございます。それと最後に資料5としまして、「2018年東住吉区長居公園秋の2大イベントでのフォトコンテスト」でございます。資料は以上でございますが、お手元でございますでしょうか。以上でございます。よろしくお願い致します。

○善積議長

ありがとうございました。

では、次第の3に参りたいと思います。

各部会から報告をいただきたいと思いますが、それぞれの会議では区の施策、事業、あるいは区の将来に向けた施策、事業のあり方について議論をいただきまして、出た意見等についての御報告となります。今回それぞれ2つの部会にメンバーが分かれてこれまで議論いただけてきたわけですが、今日は部会の枠を超えまして、委員間でミックスして活発な意見交換をしたいなと思っております。

これから報告される各部会からの提案であったり各委員から出される御意見であったりにつきましても、東住吉区ではそれらを参考に来年度の区運営方針に反映することを考えているということです。来年度の運営方針策定だけではなくて、今後の区の事業の推進においても職員の皆さんで活かしていただきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。

ではまず、子育て教育部会から御説明いただきたいと思いますので藤本部長、よろしくをお願いします。

○藤本佳孝委員

こんばんは、子育て教育部会の報告をさせていただきます藤本佳孝といたします。よろしくをお願いいたします。

子育て教育部会は、まず全体でビジョンの認識を共有しましょう、ということで東住吉区のビジョンについてみんなで議論をしました。ビジョンは「子どもが輝き、みんなが幸せなまち」となっておりまして、これがどういうことなんだろうと。子どもが輝いてみんなが幸せな町とはどんな感じだろうということでお話をしたところ、「子どもが輝く取り組みに大人が関わることで、みんなが幸せになるんじゃないか」ということで、子育てというのは親だけではなく社会全体が関わるのが大事だねということで全体を通して共有しながら話を進めてまいりました。

中身ですけれども、ページを開いていただきまして、まず提案されたテーマということで、地域コミュニティと学校の連携をどう作っていくかをベースにお話をしました。その中で、モデルケースとなる学校を選定し、地域等の連携体制を構築する方法を議論していくと。東住吉区もしくはその地域、学校の強みや弱みを検討しながら住み続けたいと思う町を目ざしていこうということでお話をしました。

部会としましては7月と9月に部会を開きまして、現地視察、各テーマでの意見交換を行いました。

まず、中野中学校の元気アップについてのヒアリング、それから白鷺中学校の元気アップについてのヒアリング、そして子育て応援ナビについて意見交換を行いました。

続きましてモデルとなる地域を検討ということで中野中学校を訪問しまして、ヒアリングを含めて議論を進めました。まず調査事項ですけれども、調査1として中野中学校元気アップヒアリング、元気アップ活動などに力を入れており、学習面サポート、土曜授業など活発な校区だという意見から、調査対象のモデルとして中野中学校を選定し現地視察を行い、校長先生とコーディネーターを交えて意見交換を行いました。

そして、調査2ということで白鷺中学校についてヒアリングを行いました。こちらは松田委員によるヒアリングを行いまして、学校ごとにニーズや課題が異なっていることもあり、青少年指導委員の活動を通じて関わりの深い白鷺中学校へのヒアリングを実施していただきました。元気アップコーディネーターから永田さんと首藤さんへのヒアリングを行

いました。

それから意見交換ということで、子育て応援ナビ意見交換を9月に行いました。部会での議論で挙げた課題、提案について子育て応援ナビを立ち上げた経緯などを共有した上で実際にサイトを確認し、情報検索などの操作を体験し、具体的に改善可能な点や周知方法などについての意見交換を実施いたしました。

それから次のページですけれども、子育て教育部会、現地視察ヒアリングについてということで、調査1、調査2について御説明させていただきます。

概要として区政会議の議論の中で地域コミュニティ、学校の連携をどのように作っていくかが部会で検討していく議題として提案されました。元気アップの活動が地域と学校をつなげるきっかけになるのではないかとということで、元気アップの取り組みの現状と課題を確認していくことを調査事項として決定いたしました。

学校元気アップ事業というのは何か、ですけれども、全中学校区において地域の方々の協力を得ながら地域社会全体で子どもを育てる仕組みとして学校元気アップ事業本部を設置し、生徒の生活習慣の確立や学力向上などの課題解消に向け、各学校のニーズに応じた取り組みを行うことになっております。活動内容としては、定期テスト前の放課後や夏休みなどの学習会、読書活動や学校図書館の開放、緑化活動、それから部活動の支援などです。

ヒアリングと意見交換で挙げた課題につきまして、元気アップ学校PTAのお助け隊の取り組みの認知度が低い。見える化が必要ではないか、地域コーディネーターの負担軽減や分担化、次の担い手の育成が課題としてあるのではないか。学びサポーター、ボランティアの獲得に係る課題、予算、周知、採用システムなどです。それから、地域実情に応じた学校教員と地域の連携のあり方を模索。中野中学校と白鷺中学校でも少し異なるのではないかと。地域コーディネーターはつなぎ役として貴重な人材である。働きを知ってもらう場が必要ではないか。取り組み、課題、連携の見える化。既に会合は年2回と定例化されていますが、なかなか広がりがないと。それから、区のホームページでリンク先集を発信し、お互いに知り、取り入れられることを発見できればいいのではないかと。学校長、教員との連携の深化、継続性の確保も必要である。元気アップとはぐくみネットの課題や取り組み方法の見える化、共有化。小中セットでの元気アップ構築。小中の学校間連携会議は既に開催されているようですが、なかなか事業としては連携が難しいということです。すみません、はぐくみネットは小学校での取り組みになります。それから、もっと地域資

源を有効に活用して青少年育成に貢献できる事業に発展させる必要があるのではないかと。というところが出ました。

白鷺中学校、中野中学校の現状を見据えて浮かび上がった課題等と解決の視点ということです。学校の会議が増えて、教員の負担が増えていきますと。それから、生徒数が減ったことによって学級数が減り教員数も減っていますと。子どもに対して、子ども一人一人の教育的ニーズに合った適切な教育的支援を地域としてもしていく必要があるのではないかと考えています。会議の重複整理やIT活用による効率化も進めつつ、学校において会議が非常に多いことが課題として述べられましたので同じような会議は、整理できるのではないかと。また、ITを活用すればもっと効率を高められるのではないかと話をしました。教員の力だけではなく学力保障サポートが求められている。また学力向上だけではなく、人としての成長支援の視点も必要ではないかと話が出ました。元気アップ、はぐくみネットのような学校を支援する取り組みの重要性が増大している。地域が、生徒たちが学習できる土壌づくりとして、学校のサポートを行える仕組みづくりがこれから重要になってくるだろう。ボランティアの募集、参加者の負担軽減など、個人の力量だけに頼らないものにしていく仕組みづくりも必要ではないかということが話し合われました。

その結果、ボランティアの継続は非常に難しいとか、ウイン・ウインの関係が成立するための要件。例えば城南短大の例では、調理を学ぶ学科の生徒たちと料理を学びたい中学生の間にウイン・ウインの関係性が成立しているということがありました。こういうことをもっと地域の中で広げていけばいいのではないかとということです。専門職を配置するなど予算措置が必要ではないか。これから事業拡大、もっと継続的に発展させていくためには、いろいろな専門職であったり地域の方々に対してであったり、予算を使って継続的につながるようなものにしていく必要があるのではないかとということです。事業を継続するための予算ではなく発展させるための役割が前提となるでしょうということです。情報発信は、言葉を発信するのではなく物語として発信し、興味を引く構成にしていけばいいのではないかとということです。ホームページ等で発信はしていますが、なかなか人の心には刺さっていかないということがあるので、何をやっているのか、どんな思いを持ってやっているのか、また生徒たちがどんなふうに変わっていったのかを含めて、もっと物語として発信していく必要があるのではないかとということです。

まとめとしまして、まず1つ目、地域、行政機関、町会、企業、商店街、団体などより広く地域資源を活かし、地域に根差した青少年育成に貢献すべきである。2つ目、学校、

教職員、生徒、PTA、卒業生、小学校、教育委員会などと課題の共有と協力関係の強化を進めるべきだと。

テーマの実現に必要なこと、今後取り組んでいきたいこと。まず、ウイン・ウインの関係、子育てだけではなく、子育てを通じて親も学ぶことの視点も大事、地域全体としても子育てを通じて地域が育つというようなメリットを見出す。企業においても子育ての視点を持つことで、できることの検討や気づきにつなげていくということです。

それから情報発信について、元気アップにおける情報発信については見える化していける仕組みをつくる。言葉だけではなく、ストーリーの見える発信をしていきましょう。生徒側の要望や希望の聞き取りについても必要ではないか。これまで先生方や関わる大人の聞き取りは行ったのですが、生徒、子どもたちの意見などの聞き取りがまだできていないので、まだ不十分だなというところです。中野中学校、白鷺中学校以外の現状把握も、もう少し進めていきたいということです。地域の把握、地域が何を望み、元気アップ事業とかかわることでのどのようなメリットを見出すことができるか。例えば、私たち企業側からすると元気アップにどのようにかかわって、我々の仕事に活かせて、子どもたちの成長を応援できるのだろうというところもしっかりと把握していければなということです。

その次のページにありますのが、学校元気アップ事業にかかわる今後のイメージという図解で、少し入り組んだ形にはなっていますが、よく整理していただけていると思いますので、後ほど皆さんで見えておいていただきたいと思います。

その次が子育て応援ナビ意見交換ということで、区政会議（本会議）、子育て教育部会の議論の中で子育て応援ナビについて、たくさんの情報が掲載されていますが改善可能な課題もあるのではないかという意見が議題の1つとなりました。部会での議論で挙げた課題、提案について、子育て応援ナビを立ち上げた経緯等の共有をした上で、実際にサイトを確認し情報の検索なども体験して具体的な改善可能な点や周知方法についての意見交換を行いました。

経過として、創設された東住吉タウンデザインアドバイザー会議においてコミュニケーションツール、区民が子育てについて調べたいときの入り口として子育て応援ナビができ上がりました。

意見交換、提案としまして、周知としましては健診時、1歳6カ月児健康診査、転入パックの場면을捉えて配布配付していますが、母子手帳を交付する際にお渡ししてはどうかという意見が出ました。子育てにうれしいお店情報については、情報募集中等の文言を入

れてはどうかです。現状としては、かかわる方々が少数でいろいろなお店を探してきて載せているので、もっと広く区民からの意見を拾えるようにしていったらどうかということだと思います。それからサイト自体のデザイン等についてはですけども、新着情報の表示、これはツイッターの更新により新着をお知らせしているということです。必要な情報を探すために見る人が多いのであれば、必ずしも新着が必要ではないのではないかとということです。辞書的に使ってもらっているのかもしれないと、活用しているユーザー数やアクセス数の検証も必要でしょうということです。恐らくこのサイトを見に行く人は新しい情報がないかなということよりも、自分が子育てをしていて必要な情報を探したいという思いで情報を取りに行く場面が多いのではないかとということです。それから子育て層以外の人は興味がないため、見てもらっても覚えてもらえない。例えば子育て掛ける〇〇、何か企業とか社会全体などで子育て層以外の人たちも巻き込んで、一般の人たちに使ってもらえる仕掛けをしてはどうかということです。先ほどの城南短大の取り組みなども踏まえて、もっと企業との連携を深めていくツールにできるのではないかとということです。それから検索ボックスやメニュータブの変更、予算的に可能か、またそのニーズがあるかを議論の上でどうするかを決定していきたいということです。

子育て教育部会の報告は以上です。ありがとうございました。

○善積議長

ありがとうございました。内容、また質問などございましたら、どうぞ御確認いただけますか。非常に内容を掘り下げて具体的な議論をされているなという印象が私にはあります。私は教育行政系のコンサルティングもやっておりますので、まさにこの地域からこういったアプローチをしてくださるのは学校にとって非常にありがたいところだと思いますので、これが一步でも二歩でも進んでいくことは、子どもたちにとっても子育てという視点からも本当に強みになっていく要素だなと、聞いていて思いましたが、いかがでしょうか。御質問、御確認されたいこと、あるいは補足されたいこととかありますか。どうですか。地域コーディネーターは、どういう方がやっておられますか。

○藤本佳孝委員

実際になさっている平田さんからお願いします。

○平田委員

平田です。地域コーディネーターは学校からなってくださいというか、地域の方とか、PTA会長とか、学校によって違うと思いますけど、そういう方々から依頼されて、以前

は教職をなされていた方とかがされていたのですが、今はだんだん変わって行って地域密着型ということで私みたいなものに声がかかるのだと思います。PTA出身なので、多分そういうことだと思います。

○善積議長

ありがとうございます。非常に重責というか、大変なお仕事で担い手がやはり課題ということですね。ほか、いかがでしょうか。どうぞ建林委員。

○建林委員

生徒側の要望とか希望とかの聞き取りが必要だということですが、具体的にどういうふうに聞いたらいいか、何年生まで聞こうとか、そんな話が出たのでしょうか。

○藤本佳孝委員

まだそこまでの具体的な話はできておりません。ただ実際には、元気アップ事業に参加している生徒もいれば参加していない生徒もいるところが現実としてあります。なぜ参加するのか、なぜ参加しないのかについても、もう少し掘り下げて聞いてみたい。本当に子どもたちが求めているものになっているかどうかをもう少し掘り下げていきたいなということです。

○善積議長

よろしいでしょうか。では、引き続きまして安心つながり部会の御説明を建林部会長、よろしく願いいたします。

○建林委員

安全つながり部会から御報告させていただきます。では1ページ、めくっていただけますでしょうか。

私たちの部会では、近年の災害の発生業況も踏まえましてここに書いています、「介護福祉施設の多い地域を選定し、地域、企業、介護がつながるセーフティネットのモデルをつくる」をテーマとしまして部会を2回、開催いたしました。第1回部会では、水害時などの被害が懸念されていること、及び藤本委員の所属するNPOが災害時の連携について情報交換を始めていることなどの理由から、今回は矢田東地域をモデルに選びまして、以下の3点を調査いたしました。区民アンケート、矢田東地域のまち歩き、介護事業者へのアンケートで進めてまいりました。

右側のページをご覧ください。最初に区民アンケートでございます。防災マップや水害ハザードマップの認知度、また避難住民、高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示の意味

や、そのときにとる行動の認知度についての設問を区民アンケートに追記させていただきまして、実施いたしました。アンケート結果は、その下にありますが、防災マップや水害ハザードマップを両方知っているという回答は31.6%であり、逆にどちらも知らないと言われるのが36.8%でした。ただ、避難開始、避難勧告、避難指示の際にとるべき行動ですけれども、75.4%の方が理解していると答えておられます。

次のページをおめくりください。次に、矢田東地域の現地視察です。実際に地域を越えて、地域を限定して皆さんで話し合っていましたので、まずは現場を見なければなかなか話が前に進まないということで、実際に大和川へ行ってきました。その大和川からの全景や避難場所では矢田東小学校を委員自身の目を見て、矢田東連合の現状、また取り組み、課題を聞かせていただき議論を大きく前に進めることに役立ちました。

その下にも書いてありますが、特に酒井災害救助部長からのお話が大きくて、実際に昨年の大和川増水の際には地域防災計画が効果的に機能せず、町会で部屋を分けるなど受け入れの仕組み改善を図ったそうです。何よりも近隣の顔見知り同士が声をかけ合うことで被災の不安が軽減できることがわかったそうです。また中学校が協力的でありまして、夏休みに中学生防災リーダーを任命し、消防署での訓練や豪雨被害の被災地のヒアリングを行ってくれたり、父兄参観と合わせて地域の防災訓練をされたりして大きく役立っていただいております。何よりも、大人の言うことよりも中学生同士で声をかけてくれたほうが皆さん、よく動いてくれたそうです。今後は彼らとの連携をいかに深めていくかも課題になっているということでした。

次のページですが、今回の意見交換で挙げた課題といたしまして、介護施設からの避難者など、普段から顔も名前も知らない間柄では連携が難しく、普段からのつながりを作っていく必要があること、また矢田東小学校や矢田中学校だけでは避難可能人数が不十分であり、圏域内の事業所に協力を呼びかけるためにも顔合わせの場所づくりが必要であること。現在は民生委員や社会福祉協議会の方は防災リーダーに入っていないということでしたので、そこも含めいろいろな団体、施設、企業との連携も深めていきたいということでした。

最後に、その下の3点目の調査であります介護事業所のアンケートです。東住吉区介護保険関係者連絡会として、話し合った中で近年の災害が続く中で地域によっては、利用者や従業員の避難などの問題を抱えているところもあるということで、全事業所に2点のアンケートを行いました。1点目が、次のページを見ていただけますでしょうか、最後のペ

ージです。1点目、一番上のところに書いておりますが、2点アンケートした上で、1つは「事業所が欲しい、知りたい地域情報は」ということです。2点目に「災害時に各事業所でできる協力は何でしょうか」という、この2点でアンケートをとらせていただきました。まだ全て意見を出し切れていないところもありますので、現在まとめているという現在進行形になります。今回は現時点で出た訪問介護や有料老人ホームの声を少し御紹介いたします。1番目の「事業所が欲しい、知りたい地域情報は」という質問に対して、事業所側としても地域で具体的にどんなことが困られているのでしょうか。またどんな対応をしたらいいのでしょうか。また地域は災害時にどこまで対処できるのでしょうかなどの質問がありました。次の、2番の「災害時に各事業所でできる協力は」という質問に対して、一時避難所としての利用や事業所内の備蓄品提供、また介護施策の協力、地域と協力した避難訓練などの声がありました。ここには記載されておきませんが、逆に、このアンケートを聞いた方が、私には権限がなくて個人として判断できません。また自分と利用者の身を守ることで精いっぱいですという声も一部ございました。今回全てをまとめ切れたわけではありませんので、事業所ごとにできることが違うのと、一概にここに書かれていることが全てではないということがございます。ですが、多くの事業所が何かの形で地域との連携を望んでいるとは感じております。

最後に下に書いておりますが、こちらの3点の調査を踏まえまして第2回の部会で議論を行いました。ここまで、委員の皆様の建設的な御意見で以下の3点の内容をまとめることができました。1点目、矢田東地域で同じテーブルで話し合っていたいただきたい方々として、校長先生を初めとした学校関係者の方々、地域振興会、社会福祉協議会、民生委員、その地域での介護施設の責任者が挙がりました。米印でもありますように、各企業に参加していただきたいのですが、災害が発生したときに必ず避難などで関わるのが介護事業所、介護施設などであるため、まずは介護施設の方との連携を検討しようということで、このように書かせていただいております。2点目にどこの組織も同じかと思えますけども、矢田東も同様に、軸となる町会を見たときに若手の育成を考えていかなければいけないことが上げられました。今回の中学生防災リーダーしかり、子どもたちの親は30代から40代の若い親御さんであり、その若い方々の協力を得ていくには、お互いにウイン・ウインの関係となるよう興味を持ってメリットが見出せるようなテーマを考えていくべきだと考えております。参入しやすいイベント的防災訓練であったり、やりたいことを応援できる町会づくりを目ざしていきたいと思っております。そのためにもまずは、3点目のところ

ですけれども今の町会が、またはその地域活動協議会などがどんな人たちで運営されており、また地域貢献をしているのか、またどんな取り組みがなされているのかを知っていただきたいということでございます。また、役員になっていただく方々も減ってきているという中で、役員をする際のメリットも知ってもらうことが大事であって、地縁の弱い人や企業、また若い人への情報発信を強化していかなければいけないと考えております。

以上3点をまとめさせていただきましたので、ここに御報告をさせていただきます。ありがとうございます。

○善積議長

ありがとうございました。私もこちらの部会に入っていたのですが、社会福祉法人への調査結果が、あのときは報告がなかったので、本日のこういった結果を見てつながるきっかけはありそうだなと感じました。非常にいい結果かなと思っております。

もう一つの部会の方も何か確認されたいこととか、質問されたいことがありましたら、どうぞお願いいたします。いかがでしょうか。あるいは少し補足しておきたいとか、そういう方がいらっしゃいましたら、どうぞおっしゃっていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

実は両方の部会に同じようなキーワードが出てきていることをお気づきになってらっしゃると思うのですが、そのあたり何かこう部会のテーマとしては違う部分がありますが、共通の根っこの部分は、一緒に取り組んでいくことで両方のテーマを解きほぐすことができるのかなと強く感じた次第でございますので、この後3つのグループに分かれていただいて、2部会をミックスした形で枠を超えた議論をしていただければと思います。それぞれの部会の方は、そのグループに属されている中で説明の補足などもしていただければと思います。各グループでそれぞれの部会に係る感想や意見、共通する課題に係る意見の3点についての取りまとめをしていただいております。取りまとめていただいております。取りまとめていただきたいと思います意見につきましては、テーブルに意見交換のポイントという形で区で御用意いただいた、前のスクリーンに投影されておりますけれども、共通のテーマと、それぞれの部会で出てきた感想・意見というところで議論を進めていただければと思います。

では、一旦この会議を休会いたしまして、30分ぐらい意見交換をしていただければと思います。再開後、各グループの代表の方を決めていただいて、その方に発表をお願いしたいと思います。またそれぞれのグループには区の職員の方もサポートとして入っていた

だければと思います。

よろしいでしょうか。

それでは一時休会としまして、今40分なので20時10分ぐらいまで各グループで御意見、意見交換をお願いできればと思います。

それでは、移動をよろしく申し上げます。

(休憩 19:41)

(再開 20:22)

○善積議長

ありがとうございました。各テーブル、非常に盛り上がった議論の声が聞こえておりました、さすが東住吉区の区政会議だと思っております。

今から会議を再開いただきます。話し合った内容をグループの代表の方、発表をいただけますでしょうか。3、4分程度におまとめいただければありがたいです。では、奥のテーブルから行きましょうか。どなたが代表として、藤本潤委員ですね。では、よろしくお願いいたします。

○藤本潤委員

そうしましたら、グループでお話をさせていただいたところをお話しさせていただきます。まず、ウイン・ウインの関係をつくるためにはというお話をさせていただいたのですが、小・中学校の職業体験とか、いろいろとされている企業はあるのですが、会社のメリットとは、子どもたちを受け入れるのに何があるのだろうか、そういうところを話し合っていたのですけれども、1つは子どもとのつながりです。かかわりみたいなものがあって癒やされる、救われるみたいなところもあったのですけれども、もっと具体的にウイン・ウインの関係ということであるなら、両者が何か持ち帰ることが多いほうがいいのではないかなというところで、まだ話が尽きず、ここの部分は終了した形です。

次に、子どもや子育て層を初めとした新たな担い手の育成をどうつないでいくかという話が出ました。その中では、特別な地域だとは思いますが幼稚園、保育園があるので、そこで役員をされている方をそのまま、どんどんイベントとかいろんなところに引っ張って行って、地域の役員として将来にわたるまで頑張っていただくというところもありました。やっぱり地域の役員さんになってもらうのに、なかなかそういう方が少ないので、どんどんそういうところから引っ張っていく、小学生のときから小学校の役員をやっている人たちをもっと育てていったり、例えば年齢差があるところで人を引っ張ってき

て、いろいろなことをやってくださいというのじゃなくて、若い子育て層同士が引っ張り合いながらこんなことをやっていこう、あんなことをやっていこうという形で人がどんどんつながって行って、その人たちが今度は引っ張っていく人たちになってという、何かそういうサイクルができるとう人手が足りないということがなくなるのじゃないかという話も出ていました。企業に例えると、採用の仕組みです。地域の担い手という、採用の仕組みみたいなものをどうやってつくっていくのかは課題ではあるのですけれども、いろいろな取り組みの仕方があるのではないかと、それをいろいろな地域間で共有していくのが大事ではないかという話が出ました。

あと、防災マップとかハザードマップの話が出ていました。今まで大阪は大丈夫とか思っておられる方が多かったのですけれども、今年、大阪はとんでもない被害を受けました。皆さんが危機意識を持っているところでもっと防災マップ、ハザードマップについて発信していくのが大事になってくるのじゃないかという話が出ました。その中では、例えばマップを自動販売機に張ってもらえるような取り組みをしてみたらどうかという話も出ていました。どんどん目につくところにそういうものを張って展開してわかってもらう、知ってもらおうという、そういう周知を徹底していくのがすごく大事ではないかなと。そういうところにこそ予算をつけていただいて、お金がかかってくるかもしれないですけれども、人命に係る大きな部分だと思いますので、ぜひそういうところをやっていただければという話が出ていたというところで、以上です。

○善積議長

はい、ありがとうございました。それでは真ん中のグループの代表の方。建林委員、お願いいたします。

○建林委員

真ん中のテーブルです。子育て部会の提案であったり感想・意見、また安心つながり部会の感想・意見も含めまして、全ての内容に通じる内容ですので分け隔てなくお話しさせていただきたいと思います。共通テーマでも、住民だけでなくというところでウイン・ウインの関係をどうやってつくっていくのか。住民の皆様であしたり、その分野の企業、事業所においてもイベント・行事のときの協賛とか、協力される場所とか、何か行事をするときに役員でちょっと出てくれますかというような協力をする住民の方とかがいらっしゃるんですけど、協力はするものの地域におけるウイン・ウインの関係が、いざというときには役立つことがあったとしてもそのときには見えない、わからないということが

あって、なかなか一步を踏み出さないというところもあるのかなど。ですから、そういったところを何かわかりやすく表現できる方法があればなということが話に出ました。特に企業、事業所においても、どうやってウイン・ウインの関係をつくっていくべきなのかが非常に検討課題として残りました。

あと全体を通してあったのが、この中のウイン・ウインの関係、また次の新たな担い手の育成も含めまして、やはり学校、教育関係との絡みが一番進めやすい。具体的に話をしていこうというところにもなっております。今、先ほどの安心つながり部会でもありました矢田東地域での中学生防災リーダーのような、学校で授業に取り組んでいただくとかで教育のところから入っていただくと。例えば宿題で地域にある危険な場所を親と一緒に見てきて探すようにとか、防災について家族で話し合ってくださいというような宿題を出すとか、何か教育の方法に地域が絡むようなことを考えていければ、その親は30代から40代の子育て層なので、少し関係性ができていくのではないのでしょうか。そういう意味では安心つながり部会のつながりにもつながっていくでしょうし、今、定年を迎えたシニア層の方々が関係性を作っていくのにもつながっていくのではないかということでした。よく例え話でもある、岸和田のだんじりの青年団というふうな組織を言われますけれども、青年団の団長になると大人の葬式でも行かなくてはいけないということもありますので、大人がやっている組織づくりを青年部がしていると考えますと、地域のイベント・行事、つまり祭りのような何か盛り上げていけることができれば、そこに企業、事業所も絡むことによってウイン・ウインの新たな形をつくっていくのではないかという皆さんの結論となりました。

子育て教育部会のところにあった子育て応援ナビですけど、介護保険の事業所ですとヘルパーの方々は主婦層、若い子育て層が多くなっておりまして、今ヘルパー不足というところで、事業所に保育所があれば子どもを預けて働けるのにな、という方もいらっしやいますので、そういった事業所に対して子育ての内容も周知していただければ、もっと活用できるのではないかという意見もございました。

以上です。

○善積議長

はい、ありがとうございます。それでは一番手前のグループで翠委員、お願いします。

○翠 委員

では、話し合った内容について少し報告させていただきます。翠と申します。よろしく

お願いいたします。

1つ目のテーマです。ウイン・ウインの関係を築き上げて参加していただける協力者を募りましょうということですが、その前段階として誰に、ウイン・ウインの協力を発信したらいいのかというのがわかりにくいと。どこに向かってそれを発信したらいいのか。発信元になってくれる人がほかにいませんかということですが、例えば地域の協力してくれそうな企業の情報、あるいは個人でいろいろなボランティアに参加してくれそうな協力者の候補みたいな情報はあるらしいと聞いておられるみたいですが、実際にその情報がうまく活用できていない。その情報は実際にどこに存在するのかわからないということで、例えば区役所に1回確認をさせていただく必要があるのじゃないかという意見が出ました。それから、地元の企業を知ることによって社会へのかかわり方とか、あるいは会社ってどんなものとかいう知識が深まるということが、まず中学生たちの具体的なウインの部分じゃないかということです。逆に、ボランティア活動に参加することによって地元の企業とか、あるいは町会、地域、この方たちが加わることによって、どういうウインがあるのかといいますと、地元の若い世代が成長してくれると、レベルが高まる。イコールその地域のレベルが高まることになって、その学校自体のレベルが高まるということは、その地域、学校を目標として集まってくる人たちの意識も高まり、その地域自体が非常に住み心地のいい地域、住みたい地域に変化してくるということであるので、やはり学校は地域の中心的な存在だろうなという意見です。

2つ目のテーマです。次の新たな担い手の育成をどうつないでいくかですが、子育て部会の元気アップ活動について言いますと、新たな担い手は、なかなか見つけにくいけれども割とどっぷりとはまり込んでしまう、あるいは今決められた動き方、手伝い方、かかわり方はちょっと難しい、しんどいけども、自分なりの動き方、かかわり方だったら何とかできますよという方は結構いらっしゃるようだという意見が出ています。

それから、防災です。安心つながり部会の特に防災面でいいますと、矢田中学校においては防災リーダー、中学生のリーダーです。中学生たちに任せると中学生のリーダーたちは積極的に動いてくれる、しっかりと活躍してくれると。だけど地域主導ですと、なかなか自主的には動かないよという意見があります。

それから中野中学においても先日、防災訓練を実施しました。そこにおいては、各地域の防災リーダーなり、町会の役員あるいは各地域の組織の人たち、PTAであるとか青指であるとか、そのあたりの方が学校に赴いて中学生に対しての意識づけをなさったという

ことですが、もっと発展形で、逆に、今まで知識を養ってきた中学生が、地域に出てきていただいて、地域での防災訓練なんかにもそういった若い力を加えていただきたいと。そのためにはどうしたらいいかについても話し合ったのですけれども、例えば中学校へ赴くのは地域の決められた防災リーダーだけじゃなくて、もっとたくさんの企業とか、あるいは施設の方もどンドンと行かれたらどうだということです。その中で地域の顔のつながり、中学生たち、若い世代とのつながりを持ってもらって、地域とはこういうものだとかわかっていただいた上で、地域にもう少し興味を持ってもらった上で各地域に参加していただけるということが必要じゃないかと。やはりこれはどちらの部会にも共通の問題認識だと思いますけれども、中学生とか若い者が地域活動にもっと興味を持ってもらいたいと。若い世代たちとの顔の見える化です。もっと身近なものと感じてもらうために、具体的に出たのが例えば区民フェスティバルであるとか、そういった地域主催の行事です。中学生とか若い世代が今、そういうところへ参加しておられないのが実情なので、せっかく東住吉には今まで築き上げた資産がありますのでそこへ中学生がもっと参加していただけるような取り組みをこれからもしていったほうがいいのじゃなかろうかと。そのためには、まずアンケートを若い世代に向けて発信して、若い世代がどうしたら関わってくれるのかと、それから若い世代がもっと楽しめる内容を具体的に考えていきたいなということです。

大体、以上の意見が出ました。

○善積議長

はい、ありがとうございました。各部会で出た補足なり、おっしゃりたいなと思っていることがあったなという方、いらっしゃいますか。よろしいでしょうか。各代表の方が非常にうまくまとめて御発言してくださったということで、ホワイトボードにもまとめて書いていただいていますし、各部会で区役所の方もそばでお聞きいただいて、記録、書きとめなどもしていただいていますよね。齋藤さん。

○齋藤政策推進課長

はい。

○善積議長

大丈夫ですね。御発言の内容にプラス、そういったメモも参考にさせていただいて各皆様、御担当の方、区役所の担当の方、参考にさせていただけるのかなと思います。

皆さん、ありがとうございました。これらの意見、提案は今後、区の施策や運営方針に反映していただけると聞いております。非常にいい意見交換だったかなと思います。

それでは次、次第の5に進めさせていただきます。

平成31年度運営方針のスケジュールについて、事務局から御説明をお願いいたします。

○齋藤政策推進課長

政策推進課長の齋藤でございます。それでは私から、平成31年度運営方針のスケジュールについて資料3をお手元に置いていただきまして、お話を聞いていただきたいと思っております。

左側に31年度運営方針にかかわるスケジュールをお示ししております。本日がこの10月の第2回区政会議、本会議ということで、先ほど委員の皆様方からいただきました御意見を踏まえまして私どもの区役所で作業を行いまして、11月に運営方針の素案をホームページで公表させていただこうと考えています。区政会議委員の皆様方に対しましては運営方針の素案について、作業後、速やかに送付させていただきます。皆様からいただいた御意見につきましては、下のほうに参考とありますけれども、以前6月にも御説明させていただいたと思っておりますが、様式4、こちらが外部評価意見への対応方針となっております。左側に外部評価意見、こちらへ区政会議でいただいた意見を書かせていただきまして、右側に区としての対応方針を書かせていただきます。下のほうを見ていただきましたら、例えば具体的取り組み1-1-1とか1-1-2に反映していますよということも、これはは、昨年の区政会議委員からいただいた内容になっておりますけれども、こちらをご覧くださいましたら皆さん方の意見をどう捉えて、どう対応しようとしているのかがわかる形になります。それをお送りしますのでご覧いただけたらなと思っております。それをまた様式2、様式3にも反映していきますよということになります。こちらが11月5日に素案として公表ということになりますので、部会でも多くのご意見をいただいておりますので、今回のご意見も追加したのも踏まえて作らせていただこうと思っております。

それと次回、区政会議の本会議開催は1月に予定させていただいております。そこで、御報告させていただきまして、2月には運営方針案として公表させていただきます。市議会を経まして4月に31年度の東住吉区運営方針として策定、公表となってまいります。

こちらは来年度になりますけど、9月に中間振り返りということでPDCAを回していくこととなります。今後のスケジュールにつきましては以上でございます。よろしく願いいたします。

○善積議長

ありがとうございました。

これで一旦議題については、以上になります。今日の議論の中で共通して言えることとしては、お互いに当事者、いろいろな主体が地域なり活動なりにかかわっていくわけですが、それぞれがお互いをよく知ること、お互いのニーズが何かを確認していく作業を丁寧にする必要があるのは皆さんの御意見の総意であって、またそれぞれがメリットだと感じていることを大事にして実現するような活動の形を作っていくことが必要だということがエッセンスとしてあるのかなと思いますので、そういった部分を大事にした方針をぜひ御提案いただけたらなと。あとは情報です。区が持ってらっしゃる情報を地域がもっと使いやすく活かせるようになっているといいのかなとも、意見としてあったのかなと思いますのでそのあたりも御検討ください。

ではそのほかに2点ほど、区役所から婚姻届のデザイン募集についてと、筒井委員からなでしこ報道局写真募集における審査員についてということでお話をいただきます。まずは区役所の池川課長からお願いいたします。

○池川窓口サービス課長

窓口サービス課長の池川と申します。いつもお世話になっております。私から、今24区で実施しておりますオリジナル婚姻届について御説明させていただきます。結婚というおめでたい人生の節目を迎えられた区民の方々に、行政といたしましてもお祝いの気持ちを表現しようということで、今使っている無地の婚姻届とは別に大阪市の24区各区で新たなオリジナル婚姻届を作成することといたしました。こういった取り組みにつきましては他の自治体でもやっているのですけれども、デザインを広く募集するのは大阪府下では初めての取り組みと聞いております。デザインの応募期間につきましては10月10日（水）正午までと、既に応募は締め切っておりまして、最終的な有効応募数としましては、東住吉区だけの応募としては14件、全区への応募といたしましては65件、計79件の応募があったと聞いております。応募のあったデザインにつきましてはそれぞれ、各区で選考を行うことといたしておりまして、当区におきましては、区民の皆様の意見が十分に反映されるよう、来庁された区民の方々に投票していただくように考えているのですが、何分79件ということで全部貼り出すわけにもいきませんので、今考えているのが婚姻届とか転入届とかを出された区民の皆様方に、待ち時間を利用して選んでいただこうかなと考えております。最終的にその投票結果に基づきまして、1点から数点のデザインを決定いたしまして、来年の1月には採用されたデザインを発表させていただきまして、3月から順次区役所や出張所等で配布を行っていきたいと考えています。また、配布以外にもホー

ムページからダウンロードができるようにしていく予定にしております。さらに、SNSの普及に合わせまして記念撮影がしたいという方々もたくさんおられますので、オリジナル婚姻届と合わせまして全ての24区で二人の記念日のお祝いをできる写真撮影コーナーも設置したいと思っております。11月から通年で設置していきたいということで今進めているところでございます。区民の方々により一層東住吉区に愛着を持っていただけるよう、少しずつですけれども努力していきたいと考えておりますので今後ともよろしくご願ひ申し上げます。

以上です。

○善積議長

ありがとうございました。5分の1ぐらいが東住吉区の応募ですね。すごいです。

では続いて、筒井委員からお話をお願いいたします。

○筒井委員

資料5をご覧ください。黄緑色の資料です。筒井からは、なでしこ報道局主催のフォトコンテストと、それから審査員募集について連絡させていただきます。10月21日、区民フェスティバルが行われました。今週末は、10月27日と28日に長居アートステージ会場でいろいろな催しがされます。なでしこ報道局について御存じの方もいらっしゃると思いますが少し紹介させていただきます。区の広報紙、なでしこの中に区民のボランティア、ライターが担当しているページがあります。また全体的なところでも区民ライターがいろいろな形でかかわっております。今回、広報東住吉なでしこ報道局が主催をしましてフォトコンテストを行います。アートステージと、先日のフェスティバルで、東住吉を紹介するのにいいなという写真を募集して最終的に審査をして、真ん中に書いていますように区長様、それから写真の専門学校、それから区政会議のメンバー代表、それから中学校の代表、それから報道局のライターで審査をして、最後に賞を決めると。何かいいものも出ると聞いておりますので、大勢の方に応募していただきたいということです。部門は2つあります。紙焼き写真の部、これは一般的な写真です。右側がスマートフォン写真、インスタグラムアプリをダウンロードして写真を応募するという2つの形があります。今日お願いしたいことは、審査員の中に区政会議メンバー代表というのが1名載っておりますので、今日お越しの方の中でぜひ審査員になりたいという方、いらっしゃいましたら手を挙げていただいて応募していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

藤本潤委員、印刷とか写真とかもやっておられる会社の方ですのでぴったりだと思ひ

ます。区政会議代表としまして藤本潤にお願いいたします。

以上です。

○善積議長

ありがとうございました。藤本潤委員、よろしくをお願いいたします。

それでは今の2つの御説明で何か、御質問などおありの方はいらっしゃいますでしょうか。大丈夫でしょうか。ありがとうございました。それでは閉会の時間も迫ってまいりましたので、市議会議員の皆様にご今日の議題についての御助言等をお願いしたいと思います。4名いらっしゃいます。よろしくをお願いいたします。それでは、田辺議員。

○田辺議員

こんばんは。本当に今日も夜遅くまで熱心な御議論、ありがとうございました。またこれまで部会におきましては、元気アップ事業の現地視察、そしてヒアリング、それと矢田東のまち歩き現地視察、ヒアリング等々で本当に御尽力いただき、そして今日もまた貴重な御意見、御議論をいただきましてありがとうございます。基本的にこの区政会議は委員の皆さんからの御意見、御提案を区政に反映していくのが主たる目的でございますので、我々議員からああしたほうがいい、こうしたほうがいいというのは本来、この会議の趣旨ではございません。ただ先ほど齋藤課長からございましたように、これから来年度の区政運営方針が固まっていき、また区の予算もそれに伴ってついていきます。我々議員団としましては、そういったところへ会議委員の皆さんの御意見、御提案がしっかりと反映されているか、また事業は来年度以降も着実にそれを執行していくか、そういったところをきっちり区役所とも連携して進めていかせていただきますので、どうぞ皆さん、引き続きよろしくようお願い申し上げます。今夜も本当に遅くまでお疲れさまでございました。ありがとうございました。

○善積議長

ありがとうございました。

○辻議員

皆さん、こんばんは。お世話になっております。活発な御意見、長時間にわたって本当にありがとうございます。以前は、私もPTAをやっているときに地域の皆さんと夜回りをさせていただいて、危険箇所マップを作ったことがあるのですが、今のお話を聞いていると、要は人と人のつながりをどうつなげていくかが非常に難しい時代になっているのかなと思いました。SNSとかICTとかの時代だけれども、このリアルに会話をしなが

ら地域のことに関して突き詰めていくと、そこにまた企業が入ってきてウイン・ウインの関係を作っていくという、ハードルは非常に高いですけれども、企業の皆さんも今はどちらかというと消費者の皆さんをしっかりとつかまなければいけない時代で、CSRということで社会貢献したいと思っています。そのきっかけづくりをこの区政会議の皆さんのお知恵を拝借しながらどうつなげていって、企業文化としてCSRを根づかせて、この地域の中でこの会社がある、このお店があると広めていくことがウイン・ウインの関係につながっていくのではないかなと思っています。そういう部分で、今日の会がしっかりとした起爆剤となるように皆さんの御活躍をしっかりと行政と、また市会としても応援をしていける形に持っていきたいと決意をしておりますので、どうか皆さん、よろしく願いいたします。

○善積議長

ありがとうございました。では江川議員、お願いします。

○江川議員

どうも長時間、本当に御議論ありがとうございました。子育てと安心つながりと今、本当に大事な問題について突っ込んで議論がされたと思っています。子育て関係で言えば、私も実は24年間、中学校の教師を20年前までやっていましたので、本当に的確に今の必要なことについて、地域のことについてまとめられているなど感心しているところです。

とりわけ4枚目の、現状を見据えた課題と解決の視点ということで、本当に的確にまとめられております。こういったことを実現するためには、ここにも書いてありますが専門職を配置するのと予算措置がぜひ必要ではないかと、ボランティアだけではなかなか難しいことがわかると、そのとおりだと思うので、こういったことについては行政が一緒になってやっていく、そういった仕組みを作っていくかならんと改めて決意をしたところでございます。と同時にもう一つ懸念される、学力向上だけでなく、人としての成長支援の視点と。今、ある人が学力、学力と、点数と言っている時期ですので教育とは人を作るということの大事さ、こういったことが広がるように皆さんと一緒にやっていきたいなと思っています。それから安心部会で、とりわけ矢田東。昨年ですか、台風、この東住吉区でも15カ所で避難所が作られて、延べ1,260人。そのうちの400人、500人が矢田東に避難されたという大和川のあの状況、あるいは今年の大変な異常気象。台風、地震と、こういった中で本当にこのことについて解決することが求められているときに、まさにタイムリーな矢田東の連携の例をこの東住吉区、大阪市に広げていくという

意見交換で挙げた課題が的確に出されていると思います。こういったことが広がるように私も皆さんと一緒にやっていきたいと思っています。

最後になりますが、区政会議で皆さんの本当にいい意見が出て、そして取り上げられているわけですが、これがさらに東住吉区、あるいは大阪市で実現していくには、この会議の意思が、これが大阪市や東住吉区に伝わるような組織拡充というか、市長や区長にしっかりと意見が反映するような、そういったものにしていただけたらとも思っていますので、そういったこともまた皆さんと一緒に考えていきたいということで一言、御挨拶とさせていただきます。

○善積議長

ありがとうございました。では加藤議員、お願いします。

○加藤議員

こんばんは。本当に長い間いろいろな御意見をいただきまして、ありがとうございます。もう何も言うことはないですけども、安心安全のところのアンケートで防災マップ、水害ハザードマップの両方ともを知っているという方が31%と、3分の1しかいらっしゃらない、9月4日に台風21号があつて、すごく皆さん、危険を感じておられた。それで、なでしこの10月号にちゃんと防災マップが載っていたと思うにもかかわらず御存じでなかったことは本当に私にとってはショックやなと思いますし、両方知らないという方も36%、いかに広報紙で頑張ったとしてもあまり見ておられないのだなとも思いましたので、やはりいろいろなツールで情報を発信していかなければならない。そして、先ほどもおっしゃいましたようにつながりを持つていくためには、どこか窓口が必要、これは区役所なのか、それともどこでしたらいいのか、子育てだけの窓口が必要なのか、それとももっと範囲が広がるのか、それによっていろいろな窓口が変わってくるようにも思います。いろいろなことで御意見をいただきまして、これから来年、今年の施策に十分反映できるように頑張ってもらいますので、皆さん方もこれからもよき御指導を賜りますようお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。

今日は本当に御苦労さまでございました。

○善積議長

ありがとうございました。今後の予定など、事務連絡について事務局から御説明、お願いします。

○齋藤政策推進課長

政策推進課長の齋藤でございます。先ほどお伝えしたように、次回は1月に開催させていただくことと、それまでに素案をお送りさせていただきますということでございますので、よろしくお願いいたします。

○善積議長

それでは、最後に区長から一言お願いいたします。

○上田区長

本日は本当に長い時間、御議論いただきましてありがとうございました。今回のテーマに対する課題解決ということで、本当にたくさんアイデアをいただいたとっております。担い手ですとかウイン・ウインの仕組みにつきましての示唆がありましたし、やはりキーワードは中学生ということだと思いました。それから、議長にもおまとめいただきましたけれども情報発信の充実、どう発信していくかがまだまだ課題だということが大きな点かなと感じました。本当にありがとうございました。今回、皆様方に御議論いただきましたご意見を踏まえて、先ほど話をさせていただいていますが、来年度の運営方針ですとか、予算編成に取り組んでいきたいと考えています。それから、1月ごろに改めてこの区政会議の本会議を開催して、その際に来年度の運営方針案等の報告をする予定としておりますので、引き続き皆様方の御理解、御協力をよろしくお願いいたします。最後の挨拶とさせていただきます。本日も本当にありがとうございました。

○善積議長 ありがとうございました。

それでは、これをもちまして第2回区政会議を終了させていただきます。

ありがとうございました。

(拍手)

—了—